

科学の甲子園 全国へ意欲

初出場 松本秀峰5年生

松本市の松本秀峰中等教育学校の5年生6人が、12日に同市で開いた「第6回科学の甲子園」(科学技術振興機



「科学の甲子園」県予選で優勝し、全国大会に向けて準備に熱を入れる生徒たち

構主催)の県予選で優勝し、来年3月に茨城県つくば市で

開く全国大会への初出場を決めた。8人で参加する全国大会は、筆記と実技の問題に理科や数学の知識を駆使して挑む。全国トップレベルの高校が集まる大会での好成績を目標に意気込んでいる。

松本秀峰のチームは10月中旬、全国大会を目標に有志8人で結成。放課後に、昨年の全国大会で出題された筆記や、実技の納豆菌からDNAを抽出する実験に取り組み、対策を練った。メンバーの自宅に集まり、1泊2日の勉強

合宿もしたという。

県予選は9校計19チームが出場。6人で協力して解く筆記は、化学、生物、物理、地学、数学、情報の6分野から2問ずつ出題され、物理と生物の実技には3人ずつに分かれて取り組んだ。

全国大会は都道府県予選を勝ち抜いた47チームが、実技3種目と筆記で競う。松本秀峰のメンバーの三沢竜太郎さん(16)は「松本市は「実技3種目が筆記のどれかで1位を取れたらいい」と話している。

くすくす笑う松本秀峰さん(16)は「実技3種目が筆記のどれかで1位を取れたらいい」と話している。

